

広袴便り

広袴町内会
会報第 49 号

発行日
令和元年 10 月 1 日

発行責任者
広袴町内会
石倉 秋夫

防災訓練

7月21日(日)、長引く梅雨の空の中、町田市消防関連の皆様のご協力のもと無事防災訓練が開催されました。当日は子供を含めた沢山の方が参加され、様々な訓練を体験しました。AEDの使い方や地震車を使った震度7の体験、煙ハウスを使った煙の体験など、その他にも様々な体験を行いました。地震車での震度7の体験では、皆、机に必死にしがみつきました。中には悲鳴を上げていた方もいました。中には悲鳴を上げていた方もいました。中には悲鳴を上げていた方もいました。

今回の防災訓練取材し、今日の異常気象や災害が多発している中、この様な体験が出来るというのはとても貴重だと思いました。いつ起こるか分からない災害にあらかじめ備え、周囲の人達と協力出来るよう、今回の訓練を生かしていけたら良いと思います。(田中)



盆踊り

8月3日(土) 16時より広袴町内会納涼盆踊り大会が開催されました。



町内会の皆様、太鼓・盆踊り関係者の皆様、消防団の方々、役員の方々、当日は朝から30度を超え

る猛暑の中、9時から21時過ぎまで、翌日は片づけと長時間に渡りご協力いただき本当に有難うございました。

前週開催予定が、台風の影響により延期となりました。しまい来場者がどうなる事かと当初は心配しておりましたが、大勢の方々(子供からお爺ちゃんお婆ちゃん迄)にお集りいただきました。

出店の様子を一部ですが紹介させていただきます。消防団の方が、玉こんにやくや蛍光スティック棒やブレスレット等を販売しておりました。小さいお子さんなど行列して買うのにどれにしようか悩んでました。恒例の焼き鳥も長い列が出来、美味しいと評判なので一人何本も買われて早くに売り切れてしまいました。フランクフルトも好調で20時には売り切れてしまいました。カキ氷も子供中心で長い列が出来ました。沢山のシロップ(イチゴ味、メロン味、ブルーハワイ味等)を用意しましたが、カップが、無くなってしまいい残念ながら売り切れ宣言を致しました。まだ長い行列でしたが、食べられなかった方々ご免なさい。

クリーンアップデー

9月8日(日) 2回目のクリーンアップデーが行われました。台風15号が接近している中、朝から晴れて蒸し暑い日でした。9時30分から各班が配布したゴミ袋に汗をたらしながら落ち葉等のゴミを集めて、10時30分位に終了する事が出来ました。有難うございます。次回も皆様のご協力の程を宜しくお願いします。(西田)



まだまだ記事を書きたいのですが、今回ご紹介できなかった出店も次回紹介させて頂きます。来年も多くの方の参加とご協力の程を何卒宜しくお願い申し上げます。誠に有難うございました。(吉川佳伸)

サークル訪問

(町トレ)

10時30分、二十人程の会員が集まりトレーニングスタート。

トレーニングの流れは町田市から提供された「町トレ」というDVDを見ながら進めていくもので椅子を補助として使用しながらDVDの進行に合わせてトレーニングを行っていきます。椅子を補助として使用するのはシニアの体力と体のバランスをサポートする為だそうです。

背中、腰、肩、太もも等のウォーミングアップの柔軟運動を行った後、本番の筋力トレーニングに入っていきます。

筋力トレーニングの内容は

- 一、腹部をはじめとした体幹部の強化
- 二、太もも及び膝周辺の強化
- 三、ふくらはぎと足関節の強化
- 四、足腰の強化（スクワット）
- 五、鼠蹊部（大腰筋）の強化



代表の大久保さん（左）
サポートの吉田さん（右）

- 毎週水曜 10:30～11:00
- 広袴会館
- 参加費 ￥50/回
- 042-737-0336（大久保）

六、握力の強化

と続き、体の各部位の筋肉を強化する為のトレーニングが盛りだくさんとしており、最後はクルダウンの為のストレッチ運動を行い終了します。

椅子を補助的に使用しながらとはいえ、30分間休み無しのトレーニングはシニアの方には少々ハードなでは質問したところ「もちろん、個人のペースで行えばいいわけで決して無理をする必要はありません。トレーニングを続けていき、血圧、脈拍、俊敏性などが月一回程の体力測定で改善されていくのを実感してくると体を動かすことが楽しくなり、外に出ていろんなことを積極的に行動したくなりますよ」とのことでした。

代表の大久保さんにこのサークルを始めたきっかけをお尋ねすると「町田市の支援も受けて地域の方々を少しでも元気にしてあげられればとの思いで二年前に立ち上げました。寝たきり老人予備軍を少しでも減らしたり、通いの場として地域の方々とふれあいやコミュニケーションの場としてお役に立てればとても嬉しいです」とのことでした。（内田）

広袴町内会、サークル等からのお知らせ

多摩合気会



- 18:00（土）
または
- 09:30（日）
体験見学歓迎

090-1816-7413

月曜喫茶

- 第4月曜 13:30～

- 健康維持体操
- 参加費 100円/回

指を動かしながらお茶を飲みましょう！



042-735-0698（洞口）

ボール体操

- 第2・4金曜日 10:00～12:00



- 広袴ホール1 & 2
- 参加費 300円
- 事前申込み不要

広袴町内会には上記以外にもリズム体操、麻雀、絵画教室、囲碁、英会話、ヨガ、ダンス、詩吟、等たくさんのサークルがあります。このコーナーを通じて少しでもサークル活動の活性化にお役に立てるよう今後も紹介をしていく予定です。（掲載の順番は申込み順となりますのでご了承ください）

サークル掲載の申し込みは

広報部 有賀、内田まで

info@hirohakama.org

広袴町内会ホームページ

www.hirohakama.org

広袴おりおり

第21回

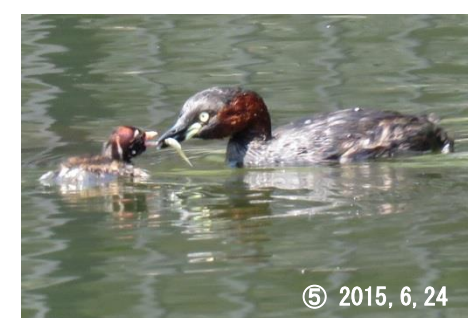
カイツブリの子育て奮闘



広袴の調整池では春から秋にカイツブリの子育て奮闘が観られることがある。しかし冬に渡去するので、カルガモやバンと違って周年は観られないし、春に飛来しなければその年は観られない。実は観られる年の方が少ない。二〇一五年に飛来した際に観察したのが①～⑬の各写真である。

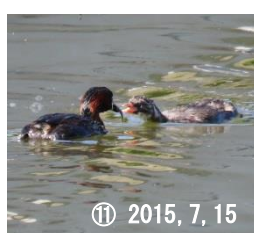
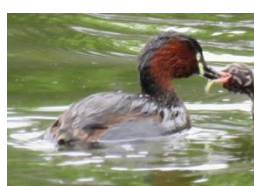
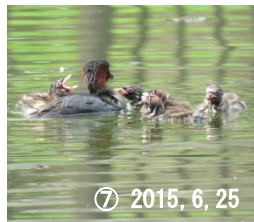
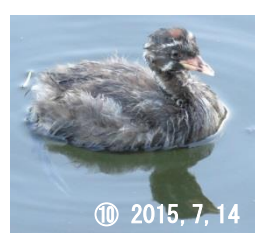
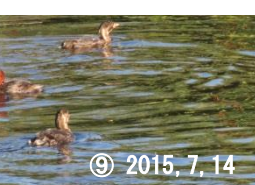
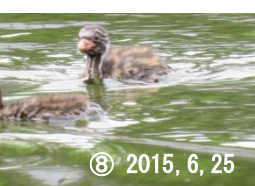
①は春、飛来したばかりのつがい。ガマの群生の中に入りしており、中で巣作りをしていることが推測できた。

やがて五月下旬頃から池面で見掛けるのは一羽だけになる。ネットによって雌雄交替で抱卵が始まっている模様と分かる。因みに外観では雌雄の区別がつかない。さらに日が経つと、②のようにガマの中



に、交替で一羽だけが頻繁に餌を咥えて出入りするようになる。孵化した雛に餌を与え始めた模様である。

その約一週間後、一羽が唐突に池の中程で羽ばたかせ、バシバシバシバと池面を激しく波立てた(③)。縄張りの誇示と推測される。その後付けになることが次の日に起こる。五羽の雛の登場である。最初、ガマの近くで恐々と親子で寄り添って



いた(④)。やがて両親が五羽に餌を与え出す(⑤)。取り残されると雛は恐いのか隊列を組んで親を待つ様子や(⑥)、親が戻った際にべったり甘えた様子を見せるが(⑦)、すぐに厳しい生存競争に晒される。実際、親は雛を決して平等には扱っておらず、絶えず一番先に近付いた雛に餌を与えている(⑧)。従って同じ雛が立て続けに何度も餌をもらう光景がよく見受けられる。二十日程経ってその理由を納得させられる。雛は早くも幼鳥になつていくが、いくら探しても三羽しか見つからないのである(⑨)。

幼鳥(⑩)に対しても親は餌を与え続ける(⑪)。さらには数日後、二番子を一羽産んでまた同じことを繰り返す(⑫)。さらに数日後、その二番子も巣立つ日を迎える(⑬)。

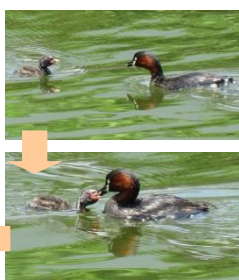


親からの餌を落としてきよんでもまた貰えるカイツブリの雛 (16組 篠田泰蔵)

余話

広い池でのデビュー

したてのカイツブリの雛は、親からの餌を上手に咥えられない。左は、雛が一度落した餌を親が潜って取り、与え直している様子の連続写真。落した際、雛がきよんとして親を見つめている。



協力者募集中！

ふるさとの森・子どもたちのために

去年の秋から、町内の「ふるさとの森」で、落ち葉を掃いて、集めて、堆肥場を作ろうという活動が有志で行なっています。その目的は、昆虫の王様、カブトムシを増やすことです。去年の夏、町田市から「自分たちが働いた結果、増えたカブトムシはその分、持ち出すことは認める。ただし、公益的活動に関する基準を守ること」という許可をもらいました。それは、「まちだ〇（まる）ごと大作戦18」20あなたの夢をみんなで実現」という市の目玉事業で「第二、第三のサトシを作れ！里山活用大作戦@鶴二おやじたちの会」が採択されたからです。

鶴二おやじたちの会とは、2004年に鶴川二小で始まった“カブトムシの楽園づくり”を応援する鶴川二小おやじの会の「その後」版です。（「鶴二」というのは、鶴二中エリアの略です。）当時のプロジエクト顧問、吉川忠作さんが「まんじゅう虫がたくさんいる町に」と語ってくれた夢、そして、それに共感した田村健治副校長（当時）と石井土木さんとの挑戦の後継でもあります。

「サトシ」とは、日本の子どもはもちろん、世界で最も有名な「サトシ」のことです。彼が生まれたのは、十歳になると義務教育が終了し、法律的にも大人と同じ扱いを受ける国のマサラタウン。そう、あのポケモンマスターのサトシです。去年、発刊された『ポケモンをつくった男・田尻智／小学館 学

習まんがスペシャル』にもありますが、ポケモンゲームの原点は田尻氏の「町田の里山で昆虫採集に熱中した幼少期の体験にある」というのです。

“ポケモンをうんだ町田の里山”。町田市の魅力を発見し、発信したい大作戦で目をつけたのが、通称「ふるさとの森」と呼ばれる森。町田市が保全を管理する公共の森で、看板にも書かれています。植物の捕獲、採取は禁止です。特に罰則規定もなく、一切を禁止にしているのは、様々な理由、背景があるようですが、「正直な子どもが悲しい思いをするのはおかしくない？」などと談判し、議論した結果、「年間を通して里山に入り、手をかける喜びを共有することで里山の維持管理活用の多面的かつ継続的な展開を期待する」というところに落ち着きました。

そのようなルールのもと、そして、「子どもゆめ基金・子どもの体験活動助成」の活動として、去年の秋から子どもたちとトライしたところ、先日の調査では我々が作った産卵場の中に300を超える幼虫が確認されました。まだ小さい一齢幼虫から、丸々太ったまんじゅう虫の三齢まで。「いたいた！」「プニプニ、可愛い！でも、頭の上はツルツル！」など、いろんな歓声が森に響きました。

これからも活動は続きます。そして、続けたいと思っています。広袴の大事な森だけに、なるべく広袴の人たちと活動していきたいと思っていますが、なかなか呼びかけや声かけができていません。我こそは！という方、子どものために顔だして見るか！

という方、懐かしい！という方など、おられましたら、毎月一回、不定期ですが、13時に広袴会館集合で、森で活動します。掲示板には案内を出します。ちなみに、10月は20日（日）、11月は23日（土・祝）の予定です。もちろん、子どもの参加も大歓迎。お問合せは、篠田 nodanoda@yahoo.co.jp まで。
（4組B班 篠田道秀）



【広報部からのお知らせ】

皆様からの風景やペットの写真・イラスト・漫画等を募集しています。ご希望の方は広報部までお送り下さい。 info@hirohakama.org

（紙面の都合上、全てを掲載することはできませんのでご了承ください）

広報部長 編集人

有賀正敏	副部長	内田尚志
黒澤正一	西野毅	吉川貴也
志村米造	田中茜	吉川佳伸
塚田秀樹	西田修	